

「内容の一層の構造化」について



ワーキンググループにおける検討事項・論点

1. 外国語を学ぶ意義

- ・AI時代に外国語を学ぶ意義の再定義と、外国語の「見方・考え方」の見直し

2. 目標・内容の一層の構造化

- ・「学びに向かう力・人間性等」の整理等を踏まえた目標の示し方
- ・「高次の資質・能力」（「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」）を中心とした内容の一層の構造化

3. 発信力強化

（1）グローバル・多文化共生社会の担い手の育成 (外国語で他者とコミュニケーションを図る意欲等の育成)

- ・英語を学ぶ動機付けや児童生徒の目標設定の在り方
- ・動機付けを強化するための話題・活動の在り方

（2）英語の使い手の育成（英語運用能力の育成）

- ・校種間接続の課題等を踏まえた指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方
- ・5領域の活動を通した知識及び技能の指導の在り方（語彙や文法の指導を含む）
- ・科学的知見を踏まえた学習プロセスを意識した指導の在り方
- ・高等学校の科目（特に「論理・表現」）の在り方
- ・AIを含むデジタル学習基盤の活用の在り方

4. 児童生徒の英語力の把握・評価

- ・「学びに向かう力・人間性等」の評価の新しい整理を踏まえた評価等の在り方

5. 柔軟な教育課程

- ・義務教育における調整授業時数制度や高校における科目の柔軟な組み替えや履修の免除を可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫の在り方

6. 指導体制・環境整備等

- ・AI時代の教師・ALT等の役割の再定義
- ・教員の資質（英語力・授業力）向上のための方策と、ALT等との連携の在り方
- ・外国語を使う機会の充実の在り方

7. 英語運用能力に関する社会全体の課題

- ・英語運用能力に関する社会全体の課題と、学校教育において取りうる対応の方向性

8. 英語以外の外国語

- ・英語以外の外国語の推進方策

学習指導要領の目標・内容の構造化・表形式化イメージと具体化が必要な論点

目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

目標、「本質的意義」を踏まえた見方・考え方

→ 「本質的意義」の再整理も含め、第3回までの議論を踏まえた案を暫定としつつ、今後の内容の等を踏まえて見直していく予定
(スライド●～●参照)

※小・中の英語の目標、高校の科目目標の在り方も別途検討

見方・考え方

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

内容

	●学年相当	●学年相当	●学年相当
知識及び技能に関する統合的な理解 ・～～～	・～～～	・～～～	・～～～
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 ・～～～	・～～～	・～～～	・～～～
(内容の取扱)			

内容

※個別の内容を選択・精選しながら議論

- 「本質的意義」の再整理、見方・考え方、目標を踏まえた話題・活動・教材等の充実の方向性
- 小・中学校の指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方 → 12/1(第4回)で議論
- 高校の科目の在り方
- 内容の一層の構造化①
 - 表形式化の具体的な形式
 - 高次の資質・能力の在り方（小・中）→ 12/16(第5回)で議論

- 内容の一層の構造化②
※高校の高次の資質・能力の在り方を含む

→ 本日議論

（その他の重要事項）

- 5領域の活動を通した知識及び技能の指導の在り方
- 語彙の在り方

→ 上記の後に議論

英語科目的変遷と改訂の方向性 (Ver 2)

- 英語によるコミュニケーションを中心とする科目趣旨を端的に示すため、両科目は「英語コミュニケーション」を共通して置いてはどうか。
 - その上で、従来の「英語コミュニケーション」は5領域を総合的に扱う趣旨を示すため「英語コミュニケーション（総合）」に、「論理・表現」は、Production（表現）とInteraction（やり取り）（「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）による発信力を一層強化するため「英語コミュニケーション（発信）」としてはどうか。
- ※これらにより2科目を併行履修した場合のカリマネも推進されるのではないか。

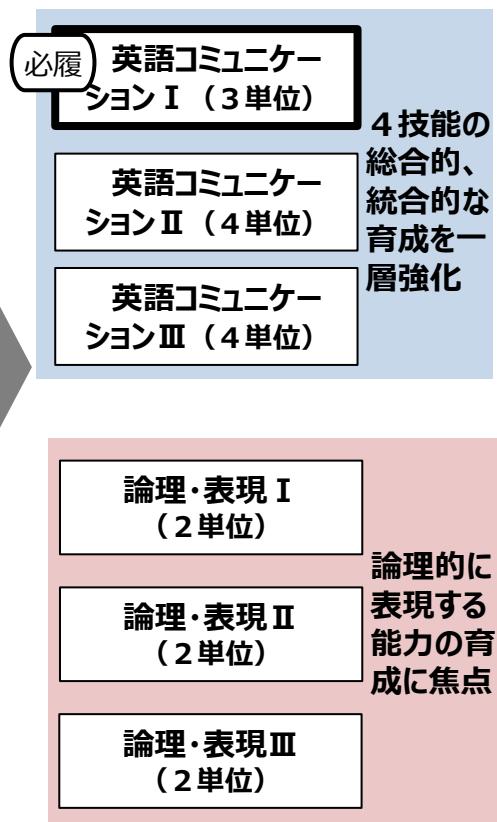
平成11年3月告示



平成21年3月告示



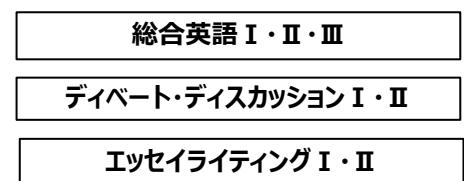
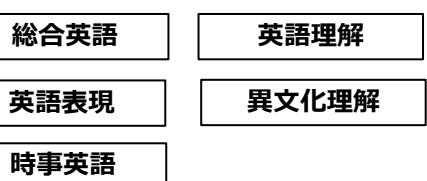
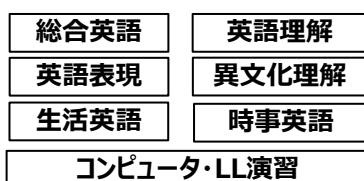
現行 (平成30年3月告示)



改訂の方向性



【専門教科（英語）】



※上記科目の改善の方向性を
踏まえ、必要な改善を行う

【現状と課題】

高等学校・外国語に関する現状と課題

(前回改訂における科目設定)

- 前回改訂では5領域を総合的に扱うことを一層重視する必履修科目として「英コミュⅠ」を設定し、更なる総合的な英語力の向上を図るために選択科目として「英コミュⅡ」及び「英コミュⅢ」を設定
- また、「話すこと」及び「書くこと」を中心とした発信力の強化を図るために、特にスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、つまりのある文章を書くことなどを扱う選択科目として「論表Ⅰ」～「論表Ⅲ」を設定

(現状と課題)

- 5領域の活動を通した指導の推進に一定の進歩が見られ、CEFR A2以上の英語力を有する生徒の割合が増加 (H25: 31.0%→R6: 51.6%)
- 一方、R6学習指導要領実施状況調査等によると、「話すこと」及び「書くこと」といった発信の領域において課題が見られる
- 世界的にも外国人留学生数が増加している中、日本の大学等においても留学生総数が過去最多となったことや、企業においても英語でのビジネスコミュニケーションを行える力が求められていることを踏まえると、引き続き高校までの英語教育には総合的な英語力の向上と発信力の強化が求められている
- 総則・評価特別部会では、学習の基盤となる資質・能力の一つである「言語能力」に関し、人間ならではの思考やコミュニケーション等を生み出す基盤となるものと整理されるとともに、「知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の一体的育成」等の実現に向けた思考・判断・表現の過程では、言語により「外化※」し、自分なりの意味を構築していくことが不可欠と示されたところ

※外化：書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

【方向性と具体的論点（案）】

科目の在り方

(科目名の見直し)

- 前回改訂で意図した総合的な英語力の向上と発信力の強化は現在も一層の推進が求められていることを踏まえると、英コミュと論表の科目の趣旨は維持すべき
- 英コミュは総合的な英語力の向上を図る趣旨を明示するため、科目名を「英語コミュニケーション（5領域総合）」に見直してはどうか
- 論表は、英語コミュニケーションを中核に「話すこと」及び「書くこと」による「外化」を中心とした発信力の強化を図る趣旨であることを示すため、科目名を「英語コミュニケーション（スピーキング・ライティング）」に見直してはどうか

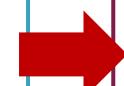
(内容の見直し)

- 併せて、各科目趣旨に沿った指導が行われるよう、内容を見直してはどうか
- また、「知・技」、「思・判・表」のさらなる強化に資するとともに、「学びに向かう力・人間性等」を育成する観点から、外国語学習方略を両科目で扱い、「内容」や「内容の取り扱い」において具体的に記載してはどうか
- 新たな英コミュと新たな論表の2科目を併行履修する場合には、新たな英コミュで読んだり聞いたりした話題を論表でも扱ったり、新たな英コミュで扱った言語材料を新たな論表でも活用したりするなど、科目間のカリマネが重要。教師の自助努力のみに委ねず、カリマネが進むよう、使用する教材間の話題や活動の連携を促進するとともに、学習指導要領において指導上の工夫を促すべきではないか

【現状と課題】

「英語コミュニケーション」（英コミュ）の現状と課題

- 5領域の活動のバランスや5領域を総合的に扱うことに対する意識は浸透しつつある
- 一方、教材の文章には発信に活用するには難しい語彙や文法が含まれている場合がある等により、読んだり聞いたりしたことをもとに、話したり書いたりするといった領域統合が十分に行われていない

【方向性と具体的論点（案）】

「英語コミュニケーション（5領域総合）」（仮称）

- 小中高の最終段階として総合的な英語力の向上を目指す新たな英コミュが、実社会における外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力をより高められるよう、5領域を総合的に扱いつつ、受容と発信の領域統合を一層重視する科目として内容の改善を図ってはどうか
- 「知識及び技能」については、既習の言語材料の活用と新たな言語材料（主に受容に必要なもの）の導入を基本とするべきではないか
- 新たな英コミュの科目趣旨に沿った指導が行われるよう、教材については以下の方向性で検討すべきではないか
 - 聞いたり読んだりする受容技能の育成を目的とした教材（①）と、読んだことをもとに書いたり話したりする発信に活用できる言語材料で構成された教材（②）という2段階で単元を構成するなど、領域統合が行いやすいように単元構成を工夫できないか
 - 発信に活用できる言語材料で構成された教材（②）については、聞いたり読んだりして、言語材料や表現する内容が徐々に蓄積され、発信での活用につながるような構成にできないか

【現状と課題】

「論理・表現」(論表)の現状と課題

- 5領域を総合的に育成する英コミュと比べて、授業で活動を通した英語使用の機会が十分に与えられておらず、科目の趣旨に沿った指導が十分行われていない実態がある
- その要因としては、以下が考えられる
 - ・英語力の向上のためには、文法事項を網羅的に指導する必要がある、という学力観
 - 文法事項を軸にした単元構成の教科書や副教材を活用して、文法解説と問題演習を中心とした授業展開が行われている場合がある
 - 言語使用における正確さを求め、結果として文法項目や語彙の用法の解説が授業の中心となる場合が多い
 - ・やり取りにおける発話や、生徒が書いた文章などに対して個別のフィードバックを行うことが物理的に困難であったり、負担が大きいため、教師が指導方法に難しさを感じている

【方向性と具体的論点(案)】

「英語コミュニケーション(スピーキング・ライティング)」(仮称)

(1) 科目の方向性・目的

- 発信力の強化を目指す観点から、新たな論表は表現等を工夫しながら、幅広い話題について発信できること、流暢性を高めることを重視すべきではないか

(2) 知識及び技能の内容と取り扱い

- 文法事項等は、発信領域の活動に必要な項目を扱うという方針を継続してはどうか
- 新たな論表で強化する「知・技」として「論理の構成や展開」の扱いを充実させてはどうか
※活動を通した知・技の指導の在り方については別途議論

(3) 活動の充実・体系化

- 主な活動として、現行のスピーチ、プレゼン、ディベート、ディスカッションに加えて、「日常的な会話」を行い、コミュニケーション方略を使いながら会話を継続したり発展させたりする力の育成を扱うこととしてはどうか
- 書くことの活動の充実を図るため、AIによるフィードバックなども有効に活用しながら、プロセスを重視した指導を強化するとともに、オンライン上の「やり取り」等を含め活動のバリエーションを示してはどうか
- 発信力強化のために、総合的な探究の時間等でこれまで学習してきたことや経験してきたことを基に英語で発表する要素を入れてはどうか
- 科目趣旨に沿った指導が行われるよう、教材については言語の働き等を活用する活動を中心とした単元構成、単元配置にするべきではないか
- 生徒の発話や作文への個別のフィードバックの充実、対話等の練習量を増加させる工夫などにおいて、AIを含むデジタル学習基盤の効果的な活用を検討するべきではないか
※AIを含むデジタル学習基盤の効果的な活用の在り方については別途議論



見方・考え方

見方
考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを
文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、
他者の考え方を受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え方等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

英語の目標

小学校 外国語活動

英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、【P】聞くこと、話すことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

小学校 外国語

英語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

中学校

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

高等学校（英コミュ（総合））（仮称）

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

内容

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

小学校 外国語活動

- ごく身近な話題について、
・情報などを聞き、内容を推測できる。【理解する】
- ・相手を意識しながら、自分の考え方や気持ちなどを話して伝えられる。【表現する】
- ・相手を意識しながら、自分の考え方や気持ちなどを伝え合うことができ、相手を理解しようとする。【伝え合う】

小学校 外国語

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、
・聞いて情報を捉え、考え方を形成するとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現の意味を考えながら読むことができる。【理解する】
- ・自分の考え方や気持ちなどを整理し、語句や表現を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】
- ・相手が話した内容を踏まえ、自分の考え方や気持ちなどを語句や表現を選んで伝え合うことができ、相互理解を図れる。【伝え合う】

中学校

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、
・聞いたり読んだりして必要な情報や考え方などを捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考え方を形成することができる。【理解する】
- ・情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して他者に伝えることができる。【表現する】
- ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら情報や自分の考え方、気持ちなどを相手に分かりやすいように表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】

高等学校（英コミュ（総合）I）（仮称）

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、
・聞いたり読んだりして、情報や考え方などの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考え方を形成してまとめることができる。【理解する】
- ・情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】
- ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを、相手に分かりやすいように論理性に注意しながら表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】

知識及び技能に関する統合的な理解

小学校 外国語活動

言語や文化の違いなどに体験を通して気付き、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、言葉の面白さや豊かさを理解できる。

小学校 外国語

音声、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。

中学校

音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。

高等学校（英コミュ（総合）I）（仮称）

音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。

構造化のイメージ（小・外国語活動の例）

外国語の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
見方・考え方	外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること		
英語の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
英語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。			
内容	高次の資質・能力	領域	第3学年相当
	ごく身近な話題について、 ・情報などを聞き、内容を推測できる。【理解する】 ・相手を意識しながら、自分の考え方や気持ちなどを話して伝えられる。【表現する】 ・相手を意識しながら、自分の考え方や気持ちなどを伝え合うことができ、相手を理解しようとする。【伝え合う】	聞くこと	話題 相手のことや身の回りの物について ごく身近な事柄について
			条件 ゆっくりはっきりと話されれば (ア) 簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる
			できること 話題 基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや身の回りの物について 自分や相手のこと及びごく身近な事柄について
		話すこと (やり取り)	条件 簡単な語句や基本的な表現を用いて (ア) 挨拶、感謝、指示をしたりそれらに応じたりすることができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応） (イ) 動作を交えながら、自分の考え方や気持ちを伝え合うことができる（※自分のことや身の回りの物に対応） (ウ) サポートを受けて、質問をしたり質問に答えたりすることができる（※自分や相手のこと及びごく身近な事柄）
			できること 話題 身の回りの物について 自分のことについて ごく身近な事柄について
			話すこと (発表)
		英語の特徴等 に関する事項	話題 身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる 条件 簡単な語句や基本的な表現を用いて (ア) 人前で実物などを見せながら、話すことができる
			ア 音声 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く イ 文字 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる ・文字の名称を表す読み方を聞いて、大文字や小文字と結びつけられる ・身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる
			【P】言語の働きに関する事項 (pragmatic competence) ア 【P】対人関係形成・創造 (interpersonal) ... イ 【P】情報交換・要件遂行 (transactional) ... ウ 【P】問題解決・合意形成 (evaluative) ...
		文化に関する事項	次の事項について、使用される場面やその働きに、体験的に気付く ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く ・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める

※小学校外国語活動においては、音声や基本的な表現への慣れ親しみを目指しており、上記「～でき／できる」については支援があって可能となるものである点を内容の取扱いで示してはどうか

※高次の資質・能力以外の内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討

※第4回で議論した、校種間の接続のための留意事項（各学校段階で確実に身に付けさせるべき事項と、前学校種からの学びの接続のために重点をおいて指導すべき事項）については主として

「内容の取扱い」に記載してはどうか（小学校外国語科、中学校も同様）

構造化のイメージ（小・外国語の例）

外国語の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等	
見方・考え方	外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること			
英語の目標	知識及び技能 外国語の音声、文字、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。			
内容	思考力、判断力、表現力等 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を読みたり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。			
高次の資質・能力	領域	第5学年相当	第6学年相当	
思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 <ul style="list-style-type: none">・聞いて情報を捉え、考えを形成するとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現の意味を考えながら読むことができる。【理解する】・自分の考え方や気持ちなどを整理し、語句や表現を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】・相手が話した内容を踏まえ、自分の考え方や気持ちなどを語句や表現を選んで伝え合うことができ、相互理解を図れる。【伝え合う】	聞くこと	話題 自分のことや相手のことについて 身近な事柄について	
			条件 ゆっくりはっきりと話されれば	
			できること (ア) 簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる (イ) 具体的な情報を聞き取ることができる (ウ) 短い話の概要を捉えることができる	
		読むこと	話題 自分のことや相手のことについて 身近な事柄について	
			条件 音声で十分に慣れ親しんだ上で	
			できること 簡単な語句や基本的な表現を識別し、情報を得ることができる 基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
		話すこと (やり取り)	話題 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
			条件 簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること (ア) 挨拶をしたり、指示や依頼に応じたりすることができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応） (イ) 自分の考え方や気持ちなどを述べ合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応） (ウ) その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応）	
		話すこと (発表)	話題 自分のことや身近な事柄について 簡単な語句や基本的な表現を用いて	
条件 (ア) 自分の考え方や気持ちを話すことができる				
できること (イ) 自分の考え方や気持ちを伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる				
書くこと	話題 自分のことや相手のことについて 身近な事柄について			
	条件 音声で十分に慣れ親しんだ上で			
	できること 例となる語句や表現を参考に、自分の考え方や気持ちなどを表す語句や表現を選んで書くことができる			
知識及び技能	音声、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。	ア 音声	音声の特徴を理解し、読みたり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。また、聞いたり話したりする際に、音声の特徴に気付き、場面に応じて活用できる ...	
		イ 文字及び符号	英語の文字を識別し、その読み方を発音したり、大文字、小文字を書いたりできるようになることができる。また、符号の意味や使い方を理解し、読みたり書いたりする際に場面に応じて活用できる ・大文字や小文字の形を認識し、名称の読みができる ・音声と語句や表現を結びつけたり、音声と文字との関係に慣れ親しんだりすることができる ・コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ、文字の形や長さなどを理解して、丁寧に語句や表現を書き写すことができる	
		ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現が用いられる場面において、音声を中心に意味や使い方を理解することができる ...	
		エ 文及び文構造	日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、場面に応じて活用できる。なお、文を書き写す際には、語と語の区切りに注意して書き写すことができる ・文 ... ・文構造 ...	
		[P]言語の働きに関する事項	ア ...	次の事項について、使用される場面と関連付けながら、コミュニケーションを通して意味や働きを体験的に理解し、活用できる ...

※高次の資質・能力以外の内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討

※文化等の理解については内容の取扱いや活動の例示で示す

構造化のイメージ（中学校の例）

外国語の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
見方・考え方	外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること		
英語の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
内容	英語の音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考え方を広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。
高次の資質・能力	領域	第1学年相当	第2学年相当
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して他者に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら情報や自分の考え、気持ちなどを相手に分かりやすいように表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】	聞くこと	話題 日常的な話題について 身近な社会的な話題について	
		条件 簡単な語句や文で、はっきりと話されれば (ア) 必要な情報を聞き取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる	
		できること 条件 簡単な語句や文で書かれた (ア) 必要な情報を読み取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる	
		話題 日常的な話題について (身近な話題について、(自分にとって) 興味・関心のある話題について) 身近な社会的な話題について	
		条件 簡単な語句や文を用いて (ア) 自分の考え方や気持ちなどを即興で伝え合うことができる (※身近な社会的な話題については対象としない) (イ) 事実や自分の考え方、気持ちなどを整理し伝え合うことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる	
	話すこと (やり取り)	できること (ア) 自分の考え方や気持ちなどを即興で話すことができる (※身近な社会的な話題については対象としない) (イ) 事実や自分の考え方、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる	
		話すこと (発表)	
		書くこと 簡単な語句や文を用いて (ア) 情報や自分の考え方、気持ちなどを文で書くことができる (イ) 事実や自分の考え方、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる	
音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。	英語の特徴や きまりに関する 事項	ア 音声 音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ...	
		イ 符号 符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる ...	
		ウ 語、連語 及び慣用表現 語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる ...	
		エ 文、文構造 及び文法事項 文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる ・文 ... ・文構造 ... ・文法事項 ...	
		【P】言語の働きに 関する事項 次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる ア	

構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（総合）（仮称）Iの例）

外国語の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
見方・考え方	外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること		
英コミュ（総合）I（仮称）の目標	<p>知識及び技能</p> <p>英語の音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などについて、幅広い話題について、英語で情報や考え方などの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して、情報や考え方、気持ちなどを、論理性に注意しながら適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p> <p>英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考え方を広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。</p>		
内容	<p>高次の資質・能力</p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・聞いたり読んだりして、情報や考え方などの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考え方を形成してまとめることができる。【理解する】 ・情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを、相手に分かりやすいように論理性に注意しながら表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】</p> <p>領域</p> <p>話題</p> <p>日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について</p> <p>社会的な話題に中学校との接続の観点から「身近なもの」を位置づけ</p> <p>聞くこと</p> <p>条件</p> <p>話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、対話や基本的な構成の叙述、説明、放送、意見などを聞いて、 (ア) 話し手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） (イ) 概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）</p> <p>領域別目標に位置づけられた「支援」を引き続き位置づけ</p> <p>読むこと</p> <p>条件</p> <p>使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な構成の叙述文、説明文、意見文などを読んで、 (ア) 書き手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） (イ) 概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）</p> <p>「聞くこと」「読むこと」ではテキストのバリエーションを示す</p> <p>話すこと（やり取り）</p> <p>条件</p> <p>使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて、 (ア) 情報や自分の考え方、気持ちなどを、即興で話して伝え合うやり取りを続けることができる（※日常的な話題に対応） (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら話して伝え合うやり取りができる</p> <p>話すこと（発表）</p> <p>条件</p> <p>使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて、 (ア) 情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら話して伝えることができる (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら話して伝えることができる</p> <p>書くこと</p> <p>条件</p> <p>使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて、 (ア) 情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら書いて伝えることができる (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら書いて伝えることができる</p> <p>音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。</p> <p>英語の特徴や語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。</p> <p>ア 音声</p> <p>音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ...</p> <p>イ 符号</p> <p>符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる ...</p> <p>ウ 語、連語及び慣用表現</p> <p>語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる ...</p> <p>エ 文、文構造及び文法事項</p> <p>文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる ・文 ... ・文構造 ... ・文法事項 ...</p> <p>【P】言語の働きに関する事項</p> <p>次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる ア</p>		

構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（発信）（仮称）Ⅰの例）

外国語の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
見方・考え方	外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること		
英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）の目標	<p>知識及び技能</p> <p>英語の音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、必要に応じて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、英語で情報や考え、意見や主張などを、論理の構成・展開及び表現等を工夫して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p> <p>英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。</p>		
内容	<p>高次の資質・能力</p> <p>領域</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>英語の音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。</p>		
	<p>話題</p> <p>日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について</p> <p>「話すこと（やりとり）」に日常的な会話を位置づけ</p>		
<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、論理の構成・展開及び表現等工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】</p> <p>相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、相手に分かりやすいように論理の構成・展開及び表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】</p>	<p>条件</p> <p>使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて</p> <p>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うやり取りが円滑に進むように方策を講じながら、会話を継続することができる（※日常的な話題に対応）</p> <p>(イ) やり取りを通して必要な情報を得ることができる（※日常的な話題に対応）</p> <p>(ウ) ディスカッションやディベートにおいて、聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、論理の構成・展開及び表現等を工夫して、情報や意見、主張などを話して伝え合うことができる</p>		
	<p>話すこと（やり取り）</p> <p>できること</p> <p>条件</p> <p>使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて</p> <p>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して話して伝えることができる（※日常的な話題に対応）</p> <p>(イ) スピーチやプレゼンテーションなどにおいて、聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、論理の構成・展開及び表現等を工夫して、情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる</p>		
	<p>話すこと（発表）</p> <p>できること</p> <p>条件</p> <p>使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて</p> <p>(ア) オンライン上などで、情報や自分の考え、気持ちなどを書いて伝え合うやり取りを行うことができる（※日常的な話題に対応）</p> <p>(イ) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して叙述文、説明文、意見文などを書いて伝えることができる</p>		<p>「書くこと」にやり取りを位置づけ</p>
	<p>書くこと</p> <p>できること</p> <p>条件</p> <p>使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて</p> <p>(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して話して伝えることができる（※日常的な話題に対応）</p> <p>(イ) 情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる</p> <p>(ウ) 聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、論理の構成・展開及び表現等を工夫して、叙述文、説明文、意見文などの形式で、情報や意見、主張などを書いて伝えることができる</p>		
<p>知識及び技能</p> <p>英語の音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。</p>	<p>ア 音声</p> <p>音声の特徴を理解し、話す際に、場面や状況に応じて活用できる</p> <p>...</p> <p>イ 符号</p> <p>符号の意味や使い方を理解し、書く際に活用できる</p> <p>...</p>		
	<p>英語の特徴やきまりに関する事項</p> <p>ウ 語、連語及び慣用表現</p> <p>語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる</p> <p>...</p> <p>エ 文、文構造及び文法事項</p> <p>文、文構造及び文法事項の意味と形式及び働きを理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる</p> <p>...</p> <p>オ 論理の構成・展開及び表現</p> <p>様々な論理の構成・展開及びそれらに応じた表現を理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる</p> <p>...</p>		
	<p>【P】言語の働きに関する事項</p> <p>ア ...</p> <p>ア ...</p>		<p>論理の構成・展開の具体的な内容を充実</p>

見方・考え方



外国語及び外国語によるコミュニケーションを
文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、
他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え方等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

英語コミュニケーション（総合）（仮称） I

※下線は高・外国語の目標に追加した点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	英語の音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え方などの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して、情報や考え方、 <u>気持ち</u> などを論理性に注意しながら適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考え方を広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・聞いたり読んだりして、情報や考え方などの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考え方を形成してまとめることができる。【理解する】 ・情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを、相手に分かりやすいように論理性に注意しながら表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】		
知識及び技能に関する統合的な理解	音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。		

英語コミュニケーション（総合）（仮称） II

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	※英コミュ（総合）（仮称） I と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え方などの概要や要点、 <u>詳細</u> 、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して、情報や考え方、気持ちなどを、論理性に注意しながら <u>詳しく</u> 適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（総合）（仮称） I と同様
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・聞いたり読んだりして、情報や考え方などの概要や要点、 <u>詳細</u> 、話し手や書き手の意図などを的確に捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考え方を形成してまとめることができる。【理解する】 ・情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、論理性に注意しながら表現等を工夫して他者に <u>詳しく</u> 適切に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを、相手に分かりやすいように論理性に注意しながら表現等を工夫して <u>詳しく</u> 適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】		
知識及び技能に関する統合的な理解	音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。		

英語コミュニケーション（総合）（仮称） III

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標	※英コミュ（総合）（仮称） I と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え方などの概要や要点、 <u>詳細</u> 、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して、情報や考え方、気持ちなどを、 <u>論理的に</u> 詳しく適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（総合）（仮称） I と同様
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・聞いたり読んだりして、情報や考え方などの概要や要点、 <u>詳細</u> 、話し手や書き手の意図などを的確に捉え、整理したり、既存の知識や経験と関連付けたり比較したりして、考え方を形成してまとめることができる。【理解する】 ・情報や自分の考え方、気持ちなどを整理し、表現等を工夫して <u>論理的に</u> 他者に適切に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、気持ちなどを、相手に分かりやすいように表現等を工夫して <u>論理的に</u> 詳しく適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】		
知識及び技能に関する統合的な理解	音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。		

高・英語コミュニケーション（発信）（仮称）の目標と高次の資質・能力（たたき台）

見方・考え方



見方
文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、
考え方
他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え方等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

英語コミュニケーション（発信）（仮称） I

※下線は高・英語コミュニケーション（総合）との主な相違点

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標 英語の音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどを認識し、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、必要に応じて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、英語で情報や考え方、意見や主張などを、論理の構成・展開及び表現等を工夫して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考え方を広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え方、意見や主張などを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して他者に適切に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、意見や主張などを、相手に分かりやすいように論理の構成・展開及び表現等を工夫して適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】		
知識及び技能に関する統合的な理解 音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどを捉え、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。		

英語コミュニケーション（発信）（仮称） II

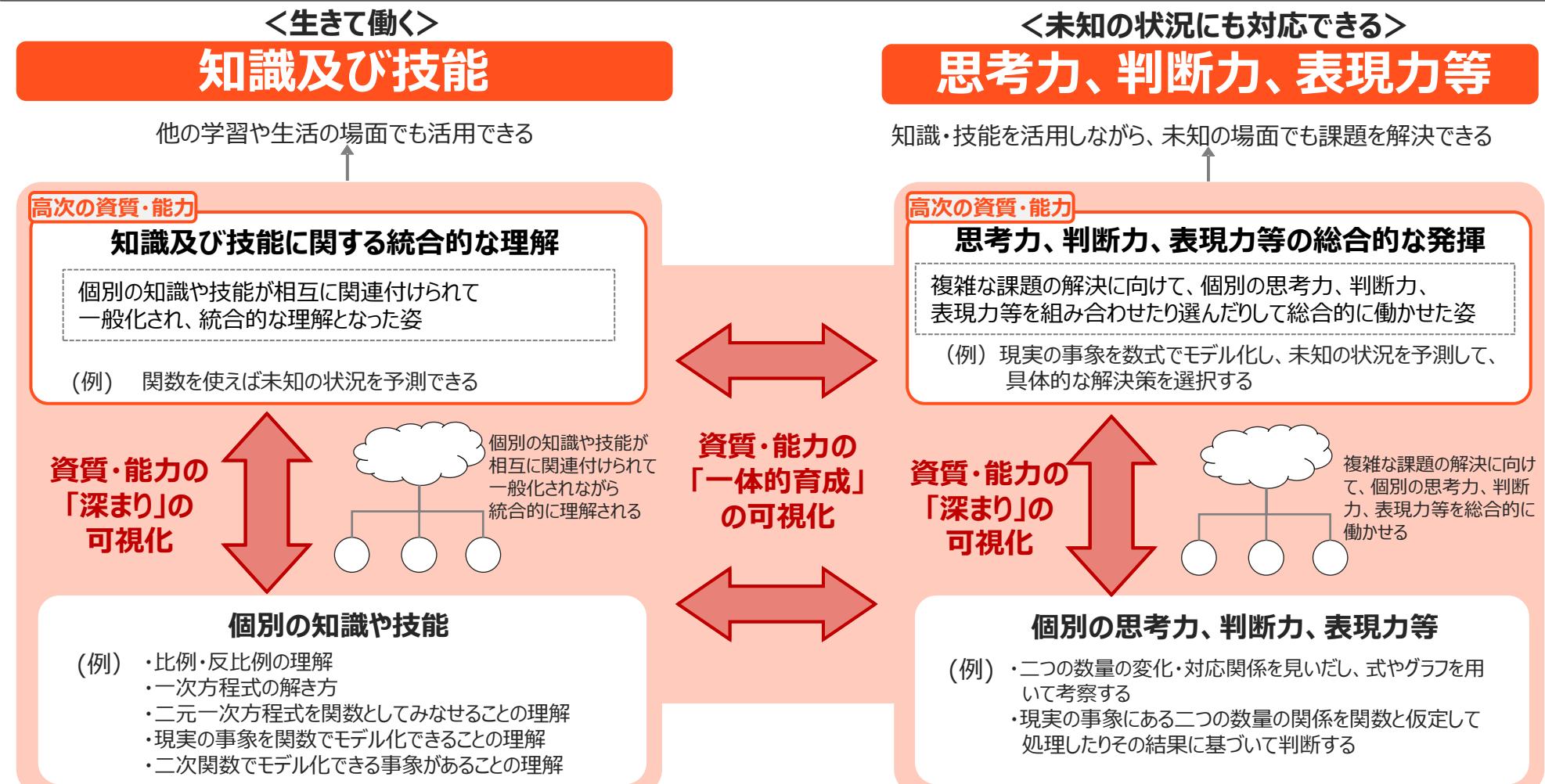
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標 ※英コミュ（発信）（仮称） I と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、必要に応じて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、英語で情報や考え方、意見や主張などを、論理の構成・展開及び表現等を工夫して詳しく適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（発信）（仮称） I と同様
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え方、意見や主張などを整理し、論理の構成・展開及び表現等を工夫して他者に詳しく適切に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、意見や主張などを、相手に分かりやすいように論理の構成・展開及び表現等を工夫して詳しく適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】		
知識及び技能に関する統合的な理解 音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどを捉え、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。		

英語コミュニケーション（発信）（仮称） III

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
目標 ※英コミュ（発信）（仮称） I と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、必要に応じて聞いたり読んだりしたことを活用しながら、英語で情報や考え方、意見や主張などを、論理の構成・展開及び表現等を工夫して、 合意形成に向けて 詳しく適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（発信）（仮称） I と同様
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え方、意見や主張などを整理し、 合意形成に向けて 論理の構成・展開及び表現等を工夫して他者に詳しく適切に伝えることができる。【表現する】 ・相手が話したり書いたりした内容を受け止めながら、情報や自分の考え方、意見や主張などを、 合意形成に向けて 相手に分かりやすいように論理の構成・展開及び表現等を工夫して詳しく適切に伝え合うことができ、相互理解を深められる。【伝え合う】		
知識及び技能に関する統合的な理解 音声、語彙、表現、文法及び論理の構成・展開並びに【P】言語の働きなどを捉え、これらの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質を高めることを理解できる。		

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
→こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



構造化のイメージ（中学校の例）

現状

外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

英語の目標（領域別目標）

聞くこと

読むこと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書くこと

内容

知識及び技能

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項

思考力・判断力・表現力等

言語活動(例)

聞くこと

読むこと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書くこと

言語の使用場面(例)

言語の働き(例)

内容の取扱い

言語材料の段階的な指導、指導内容や指導方法の工夫 など

※改善イメージにおいても引き続き記載

改善イメージ

外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

英語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

領域別目標の要素を「内容」に位置付け、段階的な高度化と資質・能力の深まりを示す

内容

思考力・判断力・表現力等

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
(理解する) (表現する) (伝え合う)

聞くこと

読むこと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書くこと

「並行」パターンで示す

知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項、言語の働き(例)など
※技能は5領域と関連付けて示す

言語の動きを「知・技」に位置付ける

「内容」は資質・能力に限定し、「言語活動の例」と「言語の使用場面の例」は内容の取扱いへ

内容の取扱い

言語活動(例)

聞くこと

読むこと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書くこと

言語の使用場面(例)

(参考) 現行学習指導要領 外国語の構成 (中学校の例)

第1 目標

- (1)知識及び技能
- (2)思考力、判断力、表現力等
- (3)学びに向かう力、人間性等

第2 各言語の目標及び内容等

英語

1 目標

- (1)聞くこと
ア …
イ …
ウ …
- (2)読むこと アイウ
- (3)話すこと [やり取り] アイウ
- (4)話すこと [発表] アイウ
- (5)書くこと アイウ

2 内容

〔知識及び技能〕

(1)英語の特徴やきまりに関する事項

- ア 音声
- イ 文字及び符号
- ウ 語、連語及び慣用表現
- エ 文、文構造及び文法事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合つたりすることに関する事項

- ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。
- ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。

(3)言語活動及び言語の働きに関する事項

- ① 言語活動に関する事項
イ 聞くこと
(ア) … (活動の例)
(イ) …
(ウ) …
(エ) …
- イ 読むこと (ア)(イ)(ウ)(エ)
ウ 話すこと [やり取り] (ア)(イ)(ウ)
エ 話すこと [発表] (ア)(イ)(ウ)
オ 書くこと (ア)(イ)(ウ)(エ)

② 言語の働きに関する事項

- ア 言語の使用場面の例
(ア)(イ)
- イ 言語の働きの例
(ア)コミュニケーションを円滑にする
・ 話し掛ける ・ 相づちを打つ ・ 聞き直す ・ 繰り返す など
(イ)気持ちを伝える (ウ)事実・情報を伝える
(エ)考えや意図を伝える (オ)相手の行動を促す

3 指導計画の作成と内容の取扱い

- (1) …
- (2) …
- (3) …

その他の外国語

…

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

…

目標における「知識及び技能」のイメージ (Ver. 3)

【第3回の案に対する御意見への対応】

- ・小・外国語：「読むこと」「書くこと」は外国語活動で取り扱っていないことから、まず慣れ親しんだ上で身に付けるというプロセスが重要であり、この点は引き続き明示してはどうか。
日本語と外国語との違いに気付いた上で理解するというプロセスについては「内容」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略してはどうか。
- ・中高：中学校においては、小学校との接続の観点から「文構造」を明示してはどうか。一方、高校においては、「文構造」を明示する必要性は薄く、むしろ加わることにより文法重視の印象が高まる懸念があるため、現行のままとしてはどうか。
- ・高校：「目的や場面、状況などに応じて」については「適切に」を補足するものであることから「内容」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略してはどうか。

※上記に加え、英語の特徴やきまりに関する各事項と【P】言語の働きを区別するため、表現を修正。

現状	小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校
	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、 <u>日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ</u> ようにする。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、 <u>日本語と外国語との違いに気付く</u> 、これらの知識を理解するとともに、 <u>読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける</u> ようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、 <u>聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける</u> ようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、 <u>聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける</u> ようにする。

改善イメージ	小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校
	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、 <u>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ</u> ようにする。	外国語の音声、文字、語彙、表現、 <u>及び文構造並びに【P】言語の働き</u> などを理解するとともに、 <u>読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける</u> ようにする。	外国語の音声、語彙、表現、文構造 <u>及び文法並びに【P】言語の働き</u> などを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	外国語の音声、語彙、表現 <u>及び文法並びに【P】言語の働き</u> などの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて <u>適切に活用できる技能を身に付ける</u> ようにする。

目標における「思考力、判断力、表現力等」のイメージ (Ver.3)

【第3回の案に対する御意見への対応】

- ・小・外国語：「推測しながら」「語順を意識しながら」は「内容の取扱い」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略してはどうか。
- ・中高：「日常的な話題」や「社会的な話題」は「内容」で明示すること、また、「身近な社会的な話題」を位置づけることから、「目標」では「様々な話題」、「幅広い話題」としてはしてはどうか。
- ・高：既にできることをさらに円滑にすること等については、指導のプロセスであり「内容の取扱い」に位置づけるべきではないか。

※上記に加え、小学校の話題について第4回の内容を踏まえ修正。

また、科目目標との役割分担を踏まえ、端的に表すため高等学校の「概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを省略。

現状	小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校
	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>身近で簡単な事柄</u> について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ <u>外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら</u> 読んだり、 <u>語順を意識しながら</u> 書いたりして、 <u>自分の考え方や気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</u>	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>日常的な話題や社会的な話題</u> について、外国語で <u>簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったり</u> することができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>日常的な話題や社会的な話題</u> について、外国語で <u>情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったり</u> することができる力を養う。

改善イメージ	小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校
	ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考え方や気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>身近な事柄</u> について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ <u>外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力を養う。</u>	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>様々な話題</u> について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>幅広い話題</u> について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

目標における「学びに向かう力、人間性等」のイメージ (Ver.2)

現状

小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	<u>外国語の背景にある文化</u> に対する理解を深め、 <u>他者</u> に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、 <u>聞き手</u> 、 <u>読み手</u> 、 <u>話し手</u> 、 <u>書き手</u> に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、 <u>聞き手</u> 、 <u>読み手</u> 、 <u>話し手</u> 、 <u>書き手</u> に配慮しながら、主体的に、 <u>自律的</u> に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



改善イメージ

小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。	<u>外国語によるコミュニケーション</u> などに興味・関心を持ち、 <u>対話・協働</u> を通して <u>考えを広げたり</u> 深めたりするとともに、 <u>自らの学習を調整して</u> 、 <u>他者との相互理解を図ろうとする</u> 態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して <u>考えを広げたり</u> 深めたりするとともに、 <u>自らの学習を調整して</u> 、 <u>他者との相互理解を深めようとする</u> 態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して <u>考えを広げたり</u> 深めたりするとともに、 <u>自らの学習を調整して</u> 、 <u>他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする</u> 態度を養う。



**(参考) 外国語を学ぶ本質的意義等を踏まえた
話題・活動等の在り方**

話題の改善イメージ（中学校の例）（Ver. 3）

日常的な話題

な社会的
な話題

（その他）

現状

取り扱う話題が学年別で示されておらず、様々な難易度のものが混在

中1～中3

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの

生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なこと

（例）

自分に関すること

- ・自分の好きなことや嫌いなこと、趣味、日常的に行っていることや過去の行動などに関する事柄
- ・住んでいる場所や部屋の様子、行きたい場所、所有しているもの、好きな動植物や飼っているペット
- ・1日の日課、週末や長期休暇の出来事や計画、将来の夢
- ・学校生活における出来事、学校行事（修学旅行先、部活動）

友達や家族、教師等に関すること

- ・家庭生活における出来事、友人や教師が休日を過ごした中で感じたこと、ALTの好きなものや体験（お気に入りの日本食、旅行中に体験したこと）

相手に関すること

- ・外国の中学生の学校生活

その他

- ・天気予報、交通情報、製品の取扱い方、スポーツクラブのパンフレット

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題

（例）エネルギー問題、環境問題（地球温暖化、自然との共存等）、世界情勢、科学技術、平和問題、人権問題、国際協力、ICTの普及、社会貢献

身近な事柄

（例）友達からの招待、電話の留守電機能にあるメッセージ

関心のある事柄

自分が関心をもっていること

（例）趣味や好き嫌い、日記や短い説明

身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること

（例）スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事（文化祭など）、休日の計画、日常の出来事

※現行の解説を基に作成

改善イメージ

各学年で取り扱うべき話題の難易度を整理し、身近なものから段階的に抽象的なものを取り扱うよう改善

中1相当

聞くこと・読むこと

日常的な話題

（例）友達、家族、学校、地域、店、公共機関など

身近な社会的な話題

（例）健康的な食生活、スクーンタイム、皆が過ごしやすい学校づくりなど
※フェイクニュース、インバウンド、外国人から見える日本、国際協力などについては生徒が興味をもったり自分事化できるように内容を工夫

話すこと・書くこと

日常的な話題

身近な話題について

- ・ごく身近な事柄や出来事について
- （例）自分のこと、相手と共に通して関心をもっていること

・身近な事柄について

- （例）身の回りのこと、相手と共に通してもっている話題（学校、地域）

（自分にとって）興味・関心のある話題

※相手が必ずしも興味・関心をもっているとは限らない

身近な社会的な話題

※上記話題の例はたたき台であり、告示や解説の検討の際に具体例について検討

AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理 (Ver. 3)

– 自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から –

1. 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
 - ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される

● コミュニケーションへの深い理解を促す

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
 - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
 - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り等）
 - ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2. 自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
 - ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、得られる情報も増える

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩すると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

よりよい社会

(社会のウェルビーイング)

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

幸福な人生

(個人のウェルビーイング)

- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）
- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築

「本質的意義」の要素については、「見方・考え方」と「目標」のみならず、本質的意義の要素は引き続き「内容」等の検討においても各趣旨を反映していくこととしてはどうか。

1. 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
⇒ **見方・考え方と目標 (学びに向かう力・人間性等)** を中心に反映してはどうか
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
⇒ **上記の理解が促されるよう、内容 (話題や活動) を工夫してはどうか**
- 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
⇒ **見方・考え方と内容 (話題や活動) を中心に反映してはどうか**
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
⇒ **見方・考え方と内容 (話題や活動) を中心に反映してはどうか**
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される
⇒ **動機付けが促されるよう、内容 (話題や活動) を検討してはどうか**

● コミュニケーションへの深い理解を促す ⇒全体として**見方・考え方**に反映してはどうか

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
 - 相手の言葉や意図の受け止め方 (聞く・読む)
 - 相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ (「やさしい日本語」にも繋がる) (話す・書く)
- 目標 (思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力・人間性等) を中心に反映してはどうか
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
⇒ **目標 (学びに向かう力・人間性等) を中心に反映してはどうか**
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫 (アイコンタクト、間の取り方、身振り等)
⇒ **内容 (言語の働き、言語活動の解説等) を中心に反映してはどうか**
- 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2. 自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
⇒ **見方・考え方と目標 (思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力・人間性等) を中心に反映してはどうか**
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
⇒ **見方・考え方と目標 (思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力・人間性等) を中心に反映してはどうか**
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される (再掲)
⇒ **動機付けが促されるよう、内容 (話題や活動) を検討してはどうか**
- アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、得られる情報も増える

⇒全体として**見方・考え方**によって導かれるものとして整理してはどうか

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を見つめたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も
(⇒ **児童生徒がこれらを実感できるように内容 (話題や活動) を検討してはどうか**)

社会の期待・認識



10年も習ったのに
英語が話せるようにならない...

ギャップを少しでも埋めるためにできることは？

学校で改善できること

コミュニケーション重視の授業
改善を行ってきているが...



ギャップが生まれる背景

必要な学習時間は到達したい水準で異なり、学校教育だけでは時間に限界

(英語話者が日本語の一般的な専門能力を身につけるために必要な授業時間数は2,200時間※。日本的小中高の外国語の授業時間は600～1,000時間程度。)

高校卒業後の伸びが少なく、学習を継続していても具体的な目標設定や学習方略がない場合が多い

(英語の学び方がわからず、自分の目標との関係で習得すべき語彙や、どのような学習がどれだけ必要なのかが意識されていない。関連して、大学教育を通じても外国語を使う力が身に付いたと実感できていないとの調査結果も。)

英語を頻繁に使わざるを得ない環境がなく、社会全体で切迫感や学習動機が弱い

(学校で学んだことを学校外で自然に使う機会はほとんどない社会的環境が言語習得の観点で不利であるとの共通認識が必要。AIの発展により、学習動機は更に弱まる可能性。)

「英語が話せない」原因は「英語で伝える内容が十分整理されていない」等の場合も

(自分の意見が母語で十分言語化されていない、国際交流で必須となる自分の国や地域に関する発信型インプットが少ない、自分の考えを伝えるのが苦手)

学校英語＝受験英語＝使えない英語との社会の認識

(コミュニケーション重視の授業改善を図ってきており、大学入試も変わってきているが、効果的な指導法がわからないなど更なる改善の余地。)

学校教育での対応の方向性 (案)

目的に応じて多様な到達水準があることや授業時間の限界を踏まえた上で、身に付けたい英語力についての自己イメージを持つことを促してはどうか

(例: 英語を学ぶ多様な意義の再整理、児童生徒が英語を身に付けたい程度や英語を使用して取り組みたいことについて自己イメージを持つことを意識した活動の充実(キャリア教育との連携を含む) 等)

自律的学習者を育てる方向で、授業デザイン・指導方法の改善を図ってはどうか

(例: 心理的安全性が確保された授業・学校づくり、AIも活用した「恥ずかしがらない」練習量の大幅な増加、AIを活用した児童生徒に応じた教材作成、第二言語習得や学習科学の知見の活用、家庭学習との効果的な連携、継続学習を可能とする学習方略 等)

AI時代に英語を学ぶ動機付けを高める機会を授業内外で多層的に充実する観点から、先行事例の成果を共有し、各地方における取組を積極的に推進してはどうか

(例: 教師・ALT等の連携促進、国内外の英語を使う人との交流、英語キャンプ、海外校との交流、英語での探究、海外留学 等)
※教育委員会と首長部局との連携を含む

英語で伝えたい内容を個々の児童生徒が育む活動を充実してはどうか

(例: AIや学校内外での交流機会を活用しつつ、自分が本当に伝えたいことや自分が生まれ育った国・地域のことを伝える活動の強化、英語に限らない教育課程全体で自分の意見を根拠に基づいて説明する活動の徹底 等)



(参考) 総則・評価特別部会資料



検討項目③

内容の表形式化の具体的な形式

検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式 (1)

1. 内容の表形式化を行う趣旨・目的

- 論点整理では、分かりやすく使いやすい学習指導要領の実現を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実装を図る観点から、学習指導要領の内容について、中核的な概念等をもとに表形式で構造化を図る方針を示している
- 具体的には、
①「知・技」「思・判・表」^(※1)の深まりの可視化（「タテ」の関係の可視化）、
②「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化（「ヨコ」の関係の可視化）により、
資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する教師の単元づくり^(※2)を助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくなることを目指すとしている
(※1) 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を指す。以下同じ。
(※2) 題材づくりを含む。以下同じ。
- 総則・評価特別部会として、論点整理の趣旨を具現化する表形式での構造化の在り方を検討し、各教科等WGでの検討に資するよう、具体的に示す必要がある

2. 内容の表形式化の具体的な考え方（「並列」パターン）

- 1. で示した趣旨を具体化する表形式を考える際、「タテ」の関係を可視化するには、個別の「知・技」「思・判・表」それぞれについて、児童生徒の中で相互に関連付けられ、構造化されて深い理解や習得に至った際の資質・能力の姿を示すことが重要となる。また、「ヨコ」の関係を可視化するには、「知・技」に対応して一体的に育成を目指す「思・判・表」を並列して記載することが考えられる
- これらを表形式で表現すると、以下のようなイメージが考えられる

中核的な概念の深い理解（仮称） XXXXXXXXXXXXXX	複雑な課題の解決（仮称） XXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXX ・XXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXX ・XXXXXXX



知識及び技能に関する 統合的な理解 XXXXXXXXXXXXXX	思考力、判断力、表現力等の 総合的な発揮 XXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXX ・XXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXX ・XXXXXXX

2. 内容の表形式化の具体的な考え方（「並列」パターン）（続き）

- このような示し方をする場合、学年区分の在り方も課題となる。現行では、各教科等の内容は、①学年別に示しているもの、②複数学年別に示しているもの、③指導する学年を示していないものがあり、①及び②については、指定する学年での指導を求めているほか、学年別目標も示している
- この点、上記のような構造化を行った場合、「統合的な理解」「総合的な発揮」にぶら下がる個別の「知・技」等が複数学年にまたがる場合も考えられる。その場合、引き続き学年毎に内容を示すこととすると、同じ「統合的な理解」「総合的な発揮」にぶら下がる資質・能力であっても学年毎に分断して示されることとなり、資質・能力の深まりを体系的に理解することに課題が残る
- また、論点整理では、教科書作成等の観点から引き続き学年区分の一定の記載は必要だが、多様な子供の実態に応じるため学年区分に囚われず柔軟に教育課程の編成・実施が可能であることを明確にすべきとされている



- これらを踏まえ、表形式化に当たっては、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとし、指導を想定する学年を明示する場合も、それに囚われず教育課程の編成が可能であることが分かるよう、例えば「○学年相当」という形式で示してはどうか（次頁のイメージ参照）
- こうした指導を想定する学年の記載については、各教科の性質や学校種・発達段階に応じて、1学年毎に示すのが適切と考えられるもの、低・中・高学年など複数学年でまとめて示すのが適切と考えられるもの、示さないことが適切と考えられるものなど様々な場合が考えられるため、柔軟に記載を検討していくことが必要ではないか

表形式による構造化パターン①（並列パターン）

資質・能力の一体的育成の可視化

（1）項目名

知識及び技能に関する統合的な理解		思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	
○学年 相当	<p>この内容のまとめを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）</p> <p>（小見出し） ・ （小見出し） ・</p> <p>右に示す思考・判断・表現の過程で、上に示す統合的な理解を獲得するため必要な要素となる知識及び技能を示す (検討項目⑤で詳細を検討)</p>	<p>この内容のまとめにおける知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）</p> <p>（小見出し） ・ （小見出し） ・</p> <p>左に示す知識及び技能を活用しながら、上に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す（検討項目⑤で詳細を検討）</p>	
○学年 相当	<p>（小見出し） ・ （小見出し） ・</p>	<p>知識及び技能に対応する思考力、判断力、表現力等が共通する場合など、分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。</p>	
○学年 相当	<p>（小見出し） ・ （小見出し） ・</p>		
（内容の 取扱い）			

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。
(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

資質・能力の深まりの可視化

検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式 (3)

2. 内容の表形式化の具体的な考え方（「並行」パターン）

- 「並列」パターンでは、「知・技」に対応して一体的に育成を目指す「思・判・表」を並列して示すことで「ヨコ」の関係を示すこととしている。このパターンは、「知・技」の内容の系統性が明確で、「知・技」の内容のまとまりに対応した固有の「思・判・表」が想定できる教科では具体的にイメージしやすく、「思・判・表」の活動を通じて対応する「知・技」を育成していく学習指導への改善に資することができる

(例) 数学では、関数における「思・判・表」と図形における「思・判・表」は異なるものが想定される

- 一方で、教科によっては、「知・技」よりも「思・判・表」の系統性が明確で、「知・技」の内容のまとまりに対応した固有の「思・判・表」が想定しにくく、「知・技」が全体として「思・判・表」の深まりを助けるといった構造のものもある

(例) 国語では、漢字・文法・情報の扱い方などの「知・技」に対応した「思・判・表」が明確ではなく、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことといった「思・判・表」のそれぞれの深まりを、「知・技」が全体として支えている構造となっている

- このような教科は、「並列」パターンのように「知・技」に対応した「思・判・表」を並列して見せることの意義は小さい。むしろ下部のイメージのように、「思・判・表」の深まりをまず明確にできるよう列として示し、その深まりを「知・技」が支えながら一体的に育まれていくことを視覚的に示すことにより、「知・技」が全体として「思・判・表」の深まりを助けることを具体的にイメージしやすく、学習指導への改善に資することができる（次頁イメージ図参照）

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 xxxxxxxxxxxx	1)	・xxxxxxxx	・xxxxxxxx	・xxxxxxxx
	2)	・xxxxxxxx	・xxxxxxxx	・xxxxxxxx
	3)	・xxxxxxxx	・xxxxxxxx	・xxxxxxxx
知識及び技能に関する統合的な理解 xxxxxxxxxxxx	・xxxxxxxx ・xxxxxxxx			

表形式による構造化パターン② (並行パターン)

資質・能力の深まりの可視化

← →

↑ ↓

資質・能力の一體的育成の可視化

				想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	<input type="radio"/> 学年相当 (1) 項目名 (小見出し) . . . (2) 項目名 (小見出し) . . . (3) 項目名 (小見出し) . . .			下に示す知識及び技能を活用しながら、左に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す。 (検討項目⑤で詳細を検討)
				左に示す統合的な理解を獲得し、上に示す思考・判断・表現を豊かにするために必要となる知識及び技能を示す (検討項目⑤で詳細を検討)
				この内容のまとめを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す (検討項目④で詳細を検討)
				学年相当に分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。
(内容の取扱い)				

※表の読み方を示す柱書きや、見出しや各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

3. 1. 及び 2. を踏まえた今後の対応

- 以上のように、示す要素は同一でもその示し方は以下の 2 つのパターンが考えられる。各教科等では、2 つのパターンから各教科等の特質に応じた学習過程の改善を図る上で、教師にイメージがより掴みやすいと考えられる方を選択し、形式の具体について各教科等WGで検討を深めることとしてはどうか
 - ✓ 「知・技」の内容のまとまりに対応した「思・判・表」を並列で示す、「並列」パターン
 - ✓ 「思・判・表」の深まりを「知・技」が支えることを示す、「並行」パターン
- なお、現行でも「知・技」「思・判・表」それぞれごとに内容を示していない、「生活」「特別活動」「道徳」「総合的な学習（探究）の時間」や幼稚園教育要領における内容の示し方については、上記のパターンの考え方を踏まえつつ、それぞれの教科・領域に適した表形式による示し方について、各WGで検討してはどうか
- なお、今回の表形式化は、欄に分けて記載された事項を一体的に、順序立てて見ることで、資質・能力に関する理解が深まり、教師の質の高い授業作りに繋がっていくということを期待して行うものである。したがって、単に見やすさのみを求めたり、表にすることが自己目的化したりすることなく、各教科等の特質に応じた学習過程の改善に繋がるように各WGで検討を深めることが重要。その際、表で端的かつ直感的な理解を保障しつつ、学習過程のデザインが具体的にイメージできるような説明が本文や解説で加えられることにより、より一層立体的な理解が可能になるのではないか。

4. 「タテ」の関係、「ヨコ」の関係の用語

- こうした考え方を表形式で示す場合、「並列」パターンでは、資質・能力の深まりを上下で、資質・能力の一体的育成の関係を左右で確認できるため、「タテ」「ヨコ」の関係の可視化という言葉がイメージしやすい。一方で、「並行」パターンでは、資質・能力の深まりは左右で、一体的育成の関係は上下で確認することとなるため、「タテ」「ヨコ」という語感とのズレが生じ、分かりにくいとの指摘もある
- このため、「タテ」「ヨコ」の関係の可視化という表現は今後用いず、「資質・能力の深まり」「資質・能力の一体的育成」の可視化といった表現を用いて示していくことが考えられるのではないか



検討項目④

中核的な概念等

1. 「高次の資質・能力」の可視化の目的

- 検討項目③では表形式での内容の構造化で、
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化
(従前の「タテ」の関係の可視化)
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化
(従前の「ヨコ」の関係の可視化)

を図ることにより、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する単元づくりを助け深い学びを具現化しやすくなる方策を検討した

- このうち特に、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(※以下、総称して「高次の資質・能力」)を示すことについては、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの

※論点整理では、「知・技」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思・判・表」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめ「中核的な概念等」と呼んでいたが、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉を用いることとしたもの。「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」をまとめて呼称する際、以後「高次の資質・能力」と呼ぶこととする。これらの用語の在り方については、各教科等WGでの具体的な議論も踏まえた上で、学校現場に趣旨が適切に伝わるものとなっているかという視点から継続的に検討。

2. 各WGでの検討に当たっての考え方

- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためにには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があり、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではない
- 一方で、各教科等での「高次の資質・能力」は、備えるべき要素や性質等について、一定の共通性があることにより、各教科等を横断して適切に機能を発揮することが期待できる
- 各教科等の独自性を活かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」の書きぶりとなるよう、次頁のように「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めてはどうか (次頁参照)
- なお、「全てのポイントに照らして異論の余地のない」ものを検討することは困難な場合も考えられるため、各教科等の授業改善に資する点を重視しつつ検討を進めるべきではないか

検討項目④ 中核的な概念等(2)

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント（案）

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核（「見方・考え方」）に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義（※）や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

（※）学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い合わせ」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか（学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意）
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか（系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等）



検討項目⑤

中核的な概念等を踏まえた個別の内容の選択・精選

1. 「高次の資質・能力」を踏まえた内容検討の必要性

【検討項目④との関係】

- 検討項目④では、「高次の資質・能力」により構造化を図ることで、「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする方策について検討を行った
- この「高次の資質・能力」による内容の構造化は、「深い学び」の実装に向けた授業づくりを支え、学習過程の改善に資するとともに、学習指導要領等に示す個別の学習内容について、「各教科等の本質的な理解の獲得を重視する観点から真に必要なものか」という視点から見直す大きな契機となる

【論点整理で示されたこと】

- 論点整理においても、構造化に当たり「各教科等の本質的な理解の獲得に重点を置き、学校段階や教科等の特性を踏まえつつ、そのために必要な学習内容を検討したり、必要に応じた精選を行ったりしていくことが必要である」と示している
- また、教科の主たる教材として学習指導に重要な役割を果たす教科書についても、「学習指導要領の構造化の考え方を踏まえ、教科書の内容は教科等の中核的な概念等を掴みやすいものに精選する」という方向性を示している



- こうした学習指導要領等に示す内容の検討と必要に応じた精選、それに伴う教科書の精選の在り方について、各WGの検討に先立ち、基本的な考え方を整理する必要

2. 各WGにおける検討に当たっての基本的な考え方

- 「高次の資質・能力」については、①各教科等の本質的な意義や背景にある学問的な系統性から演繹的に導かれる側面と、②既にある個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の2つの側面があると考えられる
 - このため、具体的な検討に当たっては、①教科等の本質的な意義や系統性に照らした妥当性の観点と、②個別の資質・能力に照らした妥当性の両面を勘案しながら、最終的には、教師にとって分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わるものとしていく必要があるのではないか
 - このような視点から、各WG等の議論や提示資料の作成に際しては、
 - 「高次の資質・能力」の全体を整理していく作業
 - 整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する作業
 - 整理した個別の資質・能力を踏まえて、「高次の資質・能力」を精査する作業
- を往還しながら、「高次の資質・能力」と個別の資質・能力のそれぞれを洗練させていくことが必要ではないか



- こうしたプロセスで資質・能力の在り方を検討しつつ、それらを表形式で構造化して示すことで、当該教科固有の学習過程の改善に繋げていく上では、学習内容のみならず、主たる教材である教科書の改善も重要。したがって、各WGでは、検定教科書制度の下で民間の教科書発行者が著作・編集することを前提としつつ、「高次の資質・能力」を掴みやすい教科書の在り方についても一定の検討を行う必要があるのではないか
- なお、総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会は、構造化の趣旨の適切な実現の観点から必要な調整を図るとともに、標準授業時数（小中学校）や標準単位数（高校）の検討の基礎とするため、こうした各教科等のプロセスの進捗を確認しながら、必要な調整を図るべきではないか

3. 今後の検討の進め方（案）

- 2. に示した基本的な考え方を踏まえ、今後の検討を以下の通り進めることについてどのように考えるか。

(1)各教科等の目標と「高次の資質・能力」のたたき台の暫定的な整理 (1月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、全教科等・科目について、目標及び見方・考え方、「高次の資質・能力」全体の一覧を修正の余地のあるたたき台として整理
※高等学校の専門教科・科目については科目数が非常に多いため柔軟に対応

(2)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整① (2月中を目途)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において、(1)で作成した一覧について議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(3)個別の資質・能力の検討と「高次の資質・能力」の精査 (3月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討
- ・整理した個別の資質・能力の在り方を踏まえて、「高次の資質・能力」の妥当性を精査し、必要に応じた修正を行う
- ・併せて、「高次の資質・能力」を掴みやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う

(4)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整② (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において(3)のプロセスで修正した「高次の資質・能力」全体の一覧や、当該教科等における表形式による構造化の在り方の議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに共有

(5)各教科等WG、総則・評価特別部会における最終調整 (時期は進捗に応じ検討)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会での議論などを踏まえ、WGでのまとめに向けた検討を実施
- ・総則・評価特別部会においては、各教科等WGの検討状況を踏まえつつ、各教科等の標準授業時数や標準単位数の在り方を踏まえたまとめの検討



参考資料・データ

【参考】旧高等学校学習指導要領における各科目と目標

平成11年3月告示

オーラル・コミュニケーションⅠ	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
オーラル・コミュニケーションⅡ	幅広い話題について、情報や考えなどを整理して英語で発表したり、話し合ったりする能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
英語Ⅰ	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
英語Ⅱ	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
リーディング	英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
ライティング	情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

平成21年3月告示

コミュニケーション 英語基礎	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。
コミュニケーション 英語Ⅰ	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
コミュニケーション 英語Ⅱ	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。
コミュニケーション 英語Ⅲ	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
英語表現Ⅰ	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
英語表現Ⅱ	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
英語会話	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域（以下この節において「五つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成とともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。

(1)聞くこと	<p>ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉える能够在するようとする。</p>
(2)読むこと	<p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉える能够在するようとする。</p>
(3)話すこと 〔やり取り〕	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続ける能够在するようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合う能够在するようとする。</p>
(4)話すこと 〔発表〕	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える能够在するようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える能够在するようとする。</p>
(5)書くこと	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝える能够在するようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝える能够在するようとする。</p>

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。

(1)聞くこと	<p>ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉える能够在するようとする。</p>
(2)読むこと	<p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉える能够在するようとする。</p>
(3)話すこと [やり取り]	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続ける能够在するようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合う能够在するようとする。</p>
(4)話すこと [発表]	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝える能够在するようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝える能够在するようとする。</p>
(5)書くこと	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝える能够在するようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝える能够在するようとする。</p>

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。

(1)聞くこと	<p>ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉える能够在するようとする。</p>
(2)読むこと	<p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉える能够在するようとする。</p>
(3)話すこと [やり取り]	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合う能够在するようとする。</p>
(4)話すこと [発表]	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝える能够在するようとする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝える能够在するようとする。</p>
(5)書くこと	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝える能够在するようする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝える能够在するようする。</p>

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの三つの領域（以下この節において「三つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。

(1)話すこと [やり取り]	<p>ア 日常的な話題について、使用的な語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようとする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的な語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようとする。</p>
(2)話すこと [発表]	<p>ア 日常的な話題について、使用的な語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようとする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的な語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようとする。</p>
(3)書くこと	<p>ア 日常的な話題について、使用的な語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようとする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的な語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようとする。</p>

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。

(1)話すこと [やり取り]	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようとする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようとする。</p>
(2)話すこと [発表]	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようとする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようとする。</p>
(3)書くこと	<p>ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようとする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようとする。</p>

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。

(1)話すこと [やり取り]	ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようとする。 イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようとする。
(2)話すこと [発表]	ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようとする。 イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようとする。
(3)書くこと	ア 日常的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようとする。 イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用的する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようとする。